

選べる夫婦のかたち 特集 Part 1

分かり合うまで話してみる



人間は基本的に自分と似た人を身近に選びます。同じ価値観、同じ趣味、同じ嗜好。自分がこれまでなじんで来た考え方ややり方で付き合うことができ、それまでの自分の生き方を否定される気遣いがない、そんな関係はとても安心するものです。

でも、どんなに似たもの同士でも、やっぱり人間は一人ひとり違います。同じだと思っていた人が、違っていると分かった瞬間、大抵の人は驚いたり、怒ったり、裏切られたと思ったりします。そこにあるのはいつも自分と、自分によく似た相手、違う他人は対象ではありません。だけど、世の中って、自分以外はみんな他人なんですよ。だから、自分と似た人が自分と同じだというのは、はっきり言って錯覚です。

もちろん、自分と似てる人も似てない人も、誰人として自分と同じではない。人間は一人ひとり違って、だから面白いんだ、なんてことは分っています。それでもやっぱり人間は違うということにおじけ付きます。それだけ、自分の生き方や考え方が好きなのか、それとも同じじゃなければ共感できないかと思いついてるのか? 生き物本来の本能なのか?

その辺のところはよく分りませんが、もしも最初から、この人と自分は違う人間なんだと分かかって付き合っていたら、相手が自分と違うことの寂しさや、ちゃんと話さなくては自分の意志が通じないことへのいら立ちも、もう少し違う感情になるのかもしれない。例えば寂しいは「へー、そうなんだ」という未知の者への興味に、いら成ちは分かってもう努力に変わっていったらして……。

違う人間同士が、ぶつこう方法で心をすり寄せ暮らしているのか、今度の「ひらく」は「違」ってぶつこうことなのかを考えてみることにしました。

「国が違う」国際結婚

田村 記久恵

ステイブ・バラティ

夫妻

初めは知らずにメール交換

日本の小平で生まれた田村記久恵さんと、サンフランシスコで生まれ、日本で暮らしていたステイブ・バラティ氏。この二人を引き合わせたのは、インターネット。

二人の共通する趣味、津軽三味線の違う流派同士の情報交換サイトで、メールを交換したのがきっかけです。

ステイブ氏は三味線歴7年、記久恵さんは2年。キャリアとしてはステイブ氏が先輩ですが、三味線を「民謡」とか「古典」というジャンルではなく、民族楽器(音楽)のひとつと捉えていた記久恵さんにとって「津軽三味線はアメリカのパンジョーに似ている」と言った彼の感覚が新鮮だったそうです。

ちなみにメール交換を始めた頃、平均年齢が高い民謡の世界で三味線を始めたステイブ氏は記久恵さんのことをおばあさん?と思っていたというのですから、三味線↓民族楽器の記久恵さんと、三味線↓日本民謡のステイブ氏の対比は面白い。

日本企業で翻訳の職につき日本語は読み書き堪能、趣味は「三味線」と「日本の民族史研究」

というステイブ氏が超日本通、日本好きなら、記久恵さんの方も好きのレベルは彼に負けない程の、「和」好き。三味線の他に、小学生から始めた書道、さらに筆のタッチを生かしてイラストも書き始め、こちらの方は仕事としても認められ、今ではプロとして活躍しています。ハイヒールより下駄、イブニング着るなら着物をと、生まれた国や文化、肌の色、言葉といろいろ違う所があるのに、一番肝心な所はかなり似ている二人です。

何が違うって、食べ物?

さて、お互い日本好きという共通点の二人ですが、もちろんいろいろな意味で違う所がたくさんあるわけですから、実際に一緒に暮らしてみると、そりゃいろいろあるわけです。

「ステイブはベジタリアンだったので、最初は食生活が違いました。だって、私は結構肉や魚が好きだったから、彼はオートミール、私はハムエッグなんてこともありました。ま、強要されるわけでもないし、別に合わせることもないとは思ってたんですけど、子どもが生まれたらすると、ベジタリアンの方がいいのかなって、何しろ野菜しか食べなくてもすごく元気な人がそばにいるんですから、だんだん私もベジタリアンになって」と、取材の日にごちそうしてくれたのが、なすの鍋しぎ、長芋の竜田揚げ(五香粉でスパイシー) キャベツの胡麻和え、豆腐のケーキと、おいしいベジタリアン料理。

野菜しか食べないアメリカ人と、肉好きな日

本人と、ちよつと変わっているけれど、食についての嗜好の^{ちよ}違いも、時間をかけてどちらが自分にとって良いのかを自分で考える、押し付けではなく自らが選ぶ自由があることが、自然に今の形になったことが良く分ります。

何が違うって、家族に対する意識?

「あと、一番違うなと思ったのは、家族に対する意識ですね。最初の子、ハルが生まれる時、私はステイブをおいて、出産後は実家で過ごす予定だったので、彼の意見は『生まれたばかりの赤ちゃんと妻と別居はしたくない。』つまり、日本人にとっては里帰りという習慣であつても、彼にとっては事実上の別居であり、それはとても不本意なことだったので。」

「だって同じ家族なのに、どうして別々に暮らさなくてはいけないんですか?僕は家事も当然やります、子どもの面倒もみます。自分のことは自分でできるんだから、実家に帰ったりしなくても、彼女はリラックス出来る。なのにおかしい。」

待ち望んでいたハルが生まれたのに、記久恵さんとハルが二人だけで小平の実家に帰るということに納得できないステイブ氏は、記久恵さんとじっくり話し合いました。結果ステイブ氏も一緒に実家に里帰りすることで解決。今年の1月、二人目のみどりが生まれた時は、助産院ではなく自宅で出産、家族4人で1週間生活した後、全員で記久恵さんの実家で2週間過ごしたそうです。

「最初は私も当然実家に帰るって思ってたんですが、どうして、なぜ？というステイプの抗議を聞いているうちに、だんだん習慣だからって、別に守らなくちゃいけないわけでもないし、要は自分が一番快適に暮らせる方法を自分が選べばいいんだなと思って……。」

またまだ家というものが個人の行動に大きく影響する日本と、家ではなく、個人が家族を作っていくアメリカと、二つの文化の違いが、出産後の里帰りという習慣の前で対峙したわけですが、何度でも「話し合う」ことで解決されていたようです。

「私たちは最初からいろいろ違う所があるのを知ってますから、どうして？とか、変じゃない？とか思ったことは黙っていませんでとことん話し合います。もちろん一回位じゃ解決しないし、同じことをいつまでも引きずっててもありません。でも、いつでもそういう疑問を我慢しないでいられる関係っていいのがいんじゃないかな？って思ってます。」

自分の意見を認めてもらうためには、相手の異論にめげず説得する努力と忍耐を持つこと。飽きずに話し合うことで、二人にとつていいやり方が少しずつ見えてくる。食べ物の好みや、日本好きという共通点はあっても、違う部分もたくさんある二人が、子ども達の教育や、家族のあり方を巡って、どのように気持ちをしり寄せしていくのか、少なくとも「言わなくても分るはず」的ニュアンスがないことだけは確かかなようです。

世間とは違う夫婦

兼業主夫

清水 恭二

例えば世間の男性はあまり育児をやりません。やりたがるかどうかは別として、事実としてやらない人が多いのです。夫が専業サラリーマンで妻が専業主婦という夫婦であれば家庭内分業が行われているというところで説明もできるのですが、共に外で働いている夫婦であっても、男性に比べ、女性の家事・育児負担割合は絶対的に高いのです。育児休業取得率の男女比較をしてみれば歴然ですが、日常の現象を見ても、保育園の送迎はママさんの方が圧倒的に多いですし、専業主婦が参加してくる小学校のPTAなどでも圧倒的な女性社会となっています。

比べて我が家は昨年从今年にかけて、夫が自身二度目の育児休業を取得しました。保育園の送迎はどちらかというと夫の方がメインですが、別に夫が専属でやっているわけではありません。炊事も洗濯も掃除も、あるいは子どもを病院に連れて行くのも、特に夫婦どちらかがやるという取り決めはありません。できる方ができることをやる。このことは夫婦でルーティン化しているわけではありませんが、結婚して十年以上たつ今でも変わっていません。ごく当たり前のことだと考えています。確かに家事・育児は専ら妻がやり、夫は家庭内に居場所がないとい

う「世間一般」の夫婦とは違うかもしれませんが、夫が仕事に専念できないではないかということもありますが、夫からすれば妻からも子どもからも愛され、当てにされ、それはそれでいい選択だったと思っっています。今の状況を不幸かと問われればそんなことはありませんし、幸福か？と問われれば本当の幸福は案外こんなものなのかなと思ったりします。



いろいろな夫婦の形があります

- * 家族経営協定を結んで農業をします
- * 夫婦別姓です
- * 家族会議で収入の使い方を決めます
- * 「結婚は契約」と言っただけで結婚生活に入りました
- * 看護師を辞めて夫に合わせて一人で店をやっています

* 今まで私の故郷東京に住んだので、定年を機に今度は夫の故郷で暮らします



関野吉晴さんに聞く

先住民から学ぶ

生きる・ヒント

ずっと前に西武線鷹の台駅に近い松明堂書店のギャラリーで、医師であり探検家の関野吉晴さん（武蔵野美術大学教授）の写真展を見ました。雄大な山、画面いっぱいの赤い空、その写真から大きな男の人を想像していたのですが、テレビに映っていた関野さんは、小柄で穏やかな表情をしていてびっくりしました。その人柄に興味を持ち、本を読んでみましたが、探検家の家族は大変だろうなという思いが、私の頭から離れませんでした。関野さんは家族についてどう考えているのでしょうか。

●子どもの頃

—子どもの頃は何をしていましたか？
五人兄妹の末っ子で、野球を毎日やっていました。両親が共働きだったため、掃除や買い物をよくさせられました。下町で育ったので近所の子どもの多くはアルバイトをしていましたが、親にダメと言われてできませんでした。だから、大学へ行ったら好きなことをやりたいと思っていました。

—大学で探検部を作ったのですね。
家を出て仕送りなしで生活しました。三年になってようやくアマゾンへ行けました。

●旅に出る時

—家を留守にすることが多いですね。一緒に旅に出ることもありましたか？



—家にいるのが一年のうちで2〜3ヶ月ということもよくありました。育児のほとんどは妻まかせです。体力的に負担のかからない旅に妻や娘と行きました。ペルー、グアテマラ、メキシコ、アメリカ、アラスカ、ネパール、アフリカ。好きなことをしている自分を見てもらう、違う文化と向き合う姿を見てもらうことで、自分の考えていることが伝わっていると思っています。

—10年間かかったグレートジャーニーの後、また新しく旅を始めたのですね。
家族にゴメンナサイと言いながら続けています。

●教育について伺います。

—厳しい環境に住む子どもはどんなふう to 育つのですか？

—親が手取り足取り教えません。大人のまねをして、弓矢を作ったり、動物の世話をする。彼らにとって自然が先生なんです。また遊ぶことによつて学んでいきますね。

—お子さんには何を望みますか？

—書かれていることを正確に理解することも大事ですが、まず人が話すことをきちんと聴き、理解すること、そして自分の思いを正しく伝えることです。いろいろな所で話していますが、「自分の好きなものを見つけ、自分で問いを立て、答えを探し続けること。とにかく本を読むこと」です。

—人と人が分かり合うためには何が必要でしょうか？

—「時間」だと思います。ともに過ごす時間をかける。先住民は本音を言い合う中で、気に入らない人がいても排除せずに取り込んでいきます。そういう意味で、先住民に学ぶ必要があると思っています。

7月21日にインドネシアへ出発する直前の、忙しい中で、親子関係の話を中心に伺い、まとめました。家族を置いて留守がちの生活でも、思いを伝えようと努力されている様子がよくわかります。旅で得たエネルギーが家族だけでなく、周囲にも広がっていくように感じました。

『トーチソング・トリロジー』

『違ってるの？違ってるの？』

「これまで聖書に出てくるより多くの男と寝たわ、旧訳も新訳も合わせてね。でも誰も本気で「愛してるよ」といつてくれる人はいなかった。私はどっだった？私は本気で愛した、本気でね。でも十分じゃなかった。」のモノローグが始まる『トーチソング・トリロジー』は、19970年代に、ニューヨークで暮らすゲイエンターテイナー、アーノルドと、彼を取り巻く様々なタイプの人たちのドラマです。13歳でゲイをカミングアウトしたアーノルド。自分を偽って女性とも付き合う、バイセクシヤルのエドと、それを知りながら彼を信じて同棲するローレン(女性)。家出の果てに男を愛するようになった、モデルのアラン。アーノルドとアランの養子として引き取られた、15歳でゲイにレイプされた経験を持つディビット。

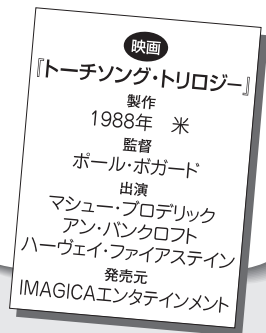
次から次へ登場する、マイノリティーの人々と、彼らが繰り

広げるあまりにも日常的な言動を

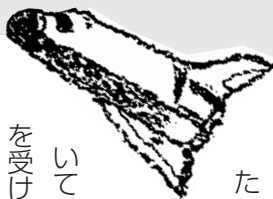
見ているうちに、一般的には、普通じゃないと思われる人たちが、全く普通の人たちと同じように生きていくことをまざまざと知らされる。

違っていたって違っていない、じゃいったい違っていてどういことなのか。喜びも、悲しみも、笑いも、怒りも、およそ人間が感じる心の動きがある以上、ゲイもストレートもないことを思い知らされる。

ただ、社会の中で違つた人たちとして隔離されている彼らの方が、自分とも他人とも真剣に向き合っていて、たとえ自分を認めてくれない「違つた人」に對しても、対等であり、誠実であり、自分を分かち合おう努力を続けているように思える。彼らにとって、自分と相手との関係は「1+1=2」。それがゲイでもそつでなくても。



婦のかたち



向井万起男・千秋夫婦の場合

『君について行こう』

女房は宇宙をめざした』(講談社)

互いに「チアキちゃん」「マキオちゃん」と呼び合い何でも話せる親友夫婦がこのカップル。といつても、初めチアキちゃんはこの結婚を渋っていました。マキオちゃんが実は

「女のくせに」とか「男たるものは」と言いたくなるタチと見抜いて、夢を追い続けた自分を受け入れてもらえなくなると心配していたからでした。

マキオちゃんはチアキちゃんの自立心の強い性格を「明るいみなしご一人旅・性格」と名付けていました。一人でも明るく生きていけるタイプなのでしよう。マキオちゃんは結婚して

いても夫として根本的に何も期待されていないし、何をしても許される自分を感じていました。これを「ラクでラッキーな

夫」と思っています。

宇宙飛行士仲間「チアキにハズバンドがいるなんてウンだ」と言われようが、ご近所に変わった夫婦だと言われようが、自分たちの常識を持っている夫婦です。チアキちゃんの宇宙飛行士になるといふ夢に、マキオちゃんも自分のことのように興味を持っていました。自分の「君には専業主婦になるというテが残されている。」「俺の男としての意地が許さない。」などの失言が、一人の人間として認めてほしかったチアキちゃんにどういふ思いをさせてしまったかも、自覚して見守ることをやめませんでした。

何よりマキオちゃんはチアキちゃんの無邪気な笑顔と豪快な笑いが好きでたまらないのだと思えます。

『ハロルドとモード』(1971)

「ロン・ヒギンス作 枝川公一訳 (二見書房)」

一日の大半を、ママを驚かすための自殺ごっこに費やす19歳のハロルド。リビングの真ん中で首吊りしたり、ガソリンを頭から被って火をつけたり、ピストルを自分の額めがけて引き金を引いたり、どれもこれも忙しいけど退屈なママをこっちに向かせるための確認行動。

一日の大半を、他人の葬式に行ったり、他人の車に黙って乗り込んだり、教会のマリア様に落書きしたり、馴染みの画家のモデル(もちろん裸)になったり、思いつき、行き当たりばったりで過ごす、あと一週間で80歳になるモード。

19年と79年、人生(変)歴は50年の差はあるけれど、出逢った瞬間、変わり者同士との親近感を感じて幸せな気持ちになる。

普通の人々の間では、拒否され、無視され、嘲笑されたたくさんさんの趣味も、二人の間ではすばらしいイベント。

ハロルドがママに買ったジャガーを霊柩車に改造したアイデアも、喜んでくれたのはモード。彼女が盗んだ白バイの後ろに付

き合ってくれたのはハロルド。

変わり者が変わっていることじゃなくて、変わっていることを認める寛大さでつながったとき、二人の間に深い愛が生まれる。

ハロルドはモードに恋をして彼女のために指輪を買った。モードも愛にこたえて、二人は結ばれます。

モードが80歳になった夜、彼女が決めていたように、長い人生に自主的に別れを告げました。ハロルドが用意したたくさんのおまわりと美しい銀の食器に囲まれて。

ハロルドは、また一人になってしまったけれど、モードに会う前より、気持ちは豊かだった。二人で走った海岸通りを霊柩車でぶっ飛ばして、そのまま高い断崖の上から車を落とす。何ものにも執着しなかったモードの気持ちに鎮魂の意味を込めて。

この不思議な作品を読み終えたとき、人と人との関係に「アリナイ」なんてことは決していないことを実感するのです。



特集 Part 2 選べる夫

お酒とおいしいたべものを間にオトナの話をどこまでも続ける
—おせいさんとカモカのおっちゃん—

『あかカモカのおっちゃん』(文春文庫)

好奇心旺盛で動のおせいさんと脱力系で静のカモカのおっちゃんとの登場です。おせいさんは作家、カモカのおっちゃんはまぢの開業医です。カモカのおっちゃんは「あーそびーましよ」と言いながら、

おせいさんのところへふらつとやってくる。二人はお酒が大好きです。酒の肴をつつきながら、世の中の出来事をつつきます。

おせいさんは「ごつやろか」とカモカのおっちゃんに話題を投げかけます。カモカのおっちゃんはこのごつやろかという別の見方をしゃべります。それはおもしろいように次から次へと会話が続きます。昭和50年頃の女性と男性の話なのに古いと



いう感じがしません。おせいさんは「女のくせに」「男はごつだ」と言う人をすぐに攻撃したりしません。とことん話し合います。時々登場する「行動を起こす会」とはまだ芽も出ていない男女共同参画の種かもしれません。



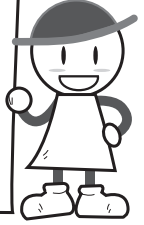
カモカのおっちゃんの言動は今ならセクハラかもしれませんが、ちっとも下品ではありません。人間に生まれたからには思う存分人間にしかできないことを楽しむという姿勢です。と同時に、人生の悲哀を知って折り合いをつけながら生きる脱力系でもあります。二人のやりとりそのものが女だとか男だとかを超越して人間が大事だよと言っています。なんでもありのオトナの話ができるオトナな一人です。

ひろく広場

原稿をお寄せください

ひろくの記事や表紙の感想、その他なんでもOKです。原稿(500字程度)には干、住所、氏名(ふりがな、原稿掲載は匿名・イニシャル可)、年齢、も書いてください。採用された原稿は文意を変えずに短くする場合があります。

あて先/小平市小川町二丁目1333番地
小平市次世代育成部青少年男女平等課
「ひろく広場」係 FAX 042-346-9200
byodo@city.kodaira.lg.jp



ひろく編集室はあなたにひらいています。

津田塾で上野千鶴子に〇〇を学ぶ!!

就職、出産、再就職、子育て完、約10年おきにフェミニズムへのこだわり、学びたい気持ちが湧いてくる。世の研究と私の人生を検証してみたい。

ちょうどそんなとき、私の目に留まったのが上野千鶴子氏の「ジェンダー研究の展開」。

まずは、ジェンダー概念の説明に始まり、何を/何の目的で/誰のために/明らかにしたいのかを問い続けているのがジェンダー研究であると。また、それはあらゆる学問領域横断の研究であり、市民権とジェンダー、軍事主義とジェンダー、近代家族とジェンダー、労働とジェンダーなどについて、毎回ぎゅーっと詰め込まれた90分だった。

上野氏からのメッセージは、「現行制度に参入するのではなく、ルールそのものをつくること。今やシナリオはできている。選択・実行あるのみ。」

いつも自分自身の違和感や好き嫌いには

こだわってきたが、自分を解放するために精力を使うのではなく、「本文」を全うしたい。現状は「注釈」で埋まっている感じがする。

これからも本文充実をあきらめず、まだ関心の手前にいる娘たちにじわ〜と伝わるようななあ。将来フェミ語で盛り上がりたりしないよう願っている。

(試写)



「植物(ハーブ)からの贈り物」美しく健康で生きるために

片桐 智子 著 文芸社

「どんな職業の友達がいればいいと思う?」

ときどき、職場でランチの時間などこういう会話が出るがあります。

「それはやっぱり医者、弁護士でしよう!」いいですね、友人にお医者様が弁護士さんがいたら、もしものときは夫や彼氏以上に心強いかも!?他に、私は、ハーブや薬膳にとっても詳しい女友達がいたらいいなあ、と想像し、一人ウツトリします。ああ、疲れたなあ」と思ったとき、ふと気づくとどこからともなく優しい香りが漂ってきたかと思うと、そっとそばにローズレッドティーなどを出してくれたり、ラベンダーオイルを少し分けてくれるような、できればちよつと年上の友達がいたら素敵だなあ、と思います。寄り添ってくれるような、包み込んでくれるような安心感をハーブの香りにのせてくれる人ってなんだか余裕も感じて、あこがれます。

本書はまさにそんな「いれればいいな、と思う女友達」的な著者が静かにハーブの様々な効用について紹介している一冊で

す。言葉による説明だけでなく、全ページにたくさんのハーブや、ハーブティ、お菓子などの写真、ほんわかとしたイラストが載っているのも見るだけでほっとした気分

にさせられます。眠りにつく前、パラパラとページをめくるだけでも穏やかな気持ちになり、オススメです。(きなこ)

BOOK

『きみはサンダーバードを知っているか もう一つの地球のまもり方』

サンダーバードと法を考える会・編 日本評論社



いまから約40年前、東京オリンピックで一気に増えたカラーテレビで、子どもたちばかりでなく大人たちも夢中で見た「サンダーバード」、それは、地球の危機を救う「ブラウン管の中のヒーロー」だった。

そのタイトルにひかれて手に取ったこの本は、「サンダーバード」を懐かしんで作られたものではなかった。

今から16年前に衆議院で可決、成立した「国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律」(通称PKO法)に異議を唱える若い憲法学者たちが提示した、地球の危機を救う「もうひとつの道」をまとめたものである。

あの「サンダーバード」がいたら、いま世界に存在する

様々な危機にどう対処したのだろうか? 「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」-「日本国憲法」前文にある考え方をベースにシミュレーションして考えてみた結果が書かれている。

「サンダーバード」のように、世界が抱える危機から人を救うことに自分の知恵と能力をどれだけ捧げられるかを考えることも忘れて今の日本人へのイエローカードか。

『軍隊のない国家 27の国々と人びと』

前田朗著 日本評論社



ミクロネシア連邦、パラオ共和国、ソロモン諸島、ナウル共和国、マーシャル諸島共和国、バヌアツ共和国、キリバス共和国、ツバル、サモア独立国、クック諸島、ニウエ、モーリシャス共和国、モルディブ共和国、コスタリカ共和国、パナマ共和国、グレナダ、セントビンセント及びグレナディーン諸島、セントルシア、セントクリストファー・ネイビス、ドミニカ国、アイスランド共和国、リヒテンシュタイン公国、サンマリノ共和国、バチカン市国、モナコ公国、アンドラ公国、ルクセンブルク大公国。これらは

軍隊のない国々。コスタリカは有名だが、他にもこんなにたくさんあるとは驚く。そして、南の国々の多くは太平洋戦争で日本軍が上陸したところだ。国には防衛のための軍隊が必要であると言われる。しかし、現実には軍隊のない国々があり、しかも攻められていない。国連にも加盟している。これらの国々を訪ねて知らせてくれた著者に感謝しながら、読んだ。

小平在住の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいき レディ21

必要としてくださる 方のところへ 身軽に伺う

—出張助産師の仕事—

さかもとあきこ
坂本昭子さんを訪ねて
(仲町在住)



国分寺の矢鳥助産院で出産。5年間スタッフとして働いた後、独立。小平少年少女青空学校に第1回から参加。今もかかわっている。

◆信頼関係が一番大事

お産は人生のひとつの通過点である。女性の体の中に備わっている「産み出す力」を信じ、リラククスして「全てを出し切るお産」が大事だ。そうすれば、子育てにすんなり入っていきける、と坂本さんは説明する。そのためには、信頼できるプロを見つけ、自分自身の体の変化に気をつけ、自分で産むと意識することが大切だそう。

◆看護師から助産師へ

「助産師は女性の一生に寄り添う仕事、暮らしの中でお手伝いをする仕事です」と坂本さんは言う。しかも、身軽に動くために、自宅に事務スペースを持つ出張助産師をしている。これまで妊産婦・新生児訪問、母乳育児相談、マタニティクラス、産後の体と心のケアなどを受け持ってきた。最近ではいのちの話や性教育の講演もする。

早く自立したかった坂本さんは高校卒業後、働きながら学び、准看護師を経て看護師の資格をとった。看護師を目指したのは、「人とかかわりの中で、人の役に立ち、自らも成長する一生続けられる仕事をしたかったから」だった。しかし、病院勤めは建前と現実との差があまりにも激しく、「これが看護師の仕事なら自分がやりたいこととは違う。」と思うようになった。そして、第一子を出産する頃には「もう看護師という仕事には戻れない。」と感じていた。

そんな坂本さんを再びやる気にさせたのは、自分が出産するとき、助産院で出会った助産師だった。その人に必要なことを見極め、最善のサポートをするプロの職人、助産師。キラキラ輝いていてあこがれた。自分のやりたいことそのものだった。坂本さんは当時2才になったばかりの長女を家に預け、短大専攻科で一年間昼夜無く学び、助産師になった。「頑張っている人に《そんなに頑張らなくてもいいよ。十分頑張っているんだから》という言葉を受けたかった」と語る。頑張っているときに限って、「頑張れ」と言われ、へなへなと力がなくなっていく経験をした人は多いのではないだろうか。

◆元気の源

坂本さんの元気の源は、家族はもちろんのこと、出張助産師の仕事、地域の異年齢集団の活動(青空学校など)、多摩地域で産み育てている母親たちと助産師たちとの活動(多摩らんなあ)だ。「本当にやりたい好きなことを選んでやっている」から元気になるらしい。坂本さんは自分の大切なものに出会い、気づき、選んだ人だと言える。

子宝助産院(出張専門)のホームページ：
<http://members2.jcom.home.ne.jp/kodakara/>

少年少女キャンプ村

東京少年少女センター主催のキャンプ。坂本さんは小平・西東京地域の事務局を勤める。

<http://www.children.ne.jp/camp/>

小平少年少女青空学校

小平市内で30年以上続く子どもたちの学びと仲間作りの活動。春は日帰り、夏は3泊4日のキャンプを行う。

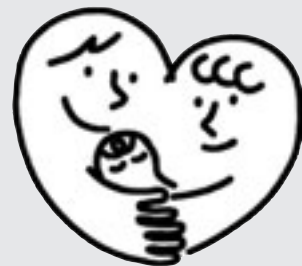
少年団

異年齢の仲間の中で、それぞれの持ち味や言い分を大切にし、自主的、民主的に年間を通して運営する場。

「出産・子育て応援イベント」 多摩らんなあホームページ

http://www.geocities.jp/tamaran_nar/

「子を産み、育てることはたまたまなく幸せ」だから「多摩らんなあ」と名付ける。



フォーラムと講座

●女と男の参画講座

男女が対等な立場で、責任を担いつつ、自らの意思で参画することができる男女共同参画について、身近な問題として感じてもらえるよう、「出会う」をテーマに2回にわたり、分かりやすい視点で講座を開催します。

現在子育て中の女性を中心に、そのかわりのある周りの方たちを対象として、日常生活ではなかなか気づかない自分の心に向き合って、自分らしい子育てをしようと考えてもらえるいい機会になればと思います。

第1回「出会う」

～自分自身を振り返って「わたし」と出会う～

日時：11月12日(水)午前10時から正午

第2回「出会う」

～新しい自分と出会い、新しい人間関係と出会う～

日時：11月29日(土)午前10時から正午

第1回、第2回ともに

講師：坂上頼子さん(オフィスかけはし代表)

会場：小平市男女共同参画センター「ひらく」

●女と男のフォーラム

「それぞれの大切なもの」

～出会う・気づく・選ぶ～(仮題)

日時：平成21年2月8日(日)

会場：小平市中央公民館ホール

ひらく 掲示板



小平元気村おがわ東のグランド脇。



ここを畑にするからには、まず小石拾いと草むしり。



掘って、耕し、土を盛り…



ビニールかけ。オカッパは前髪が命。



水をやっても、あっという間にはけてしまう。



芽吹き。夏の太陽と毎日の水やりのおかげ。



小さいけど、ドンマイ、ドンマイ。



木村幸恵

1975年北海道生まれ。2001年武蔵野美術大学大学院造形研究科油絵コースを修了。在学中ニューヨーク・クィーンズ美術館インターンシップに参加。「アーツカラシップ2001」入選(南條史生部門)、2004年都内に「きむらっち日本近現代美術研究所・KIMCo.JAPAN」を設立。

府中街道と玉川上水の交差する雑木林のむこうに、今日も津田塾大学の校舎が見える。市民にとってはなじみの風景だ。

創業者津田梅子は、「遠い将来を考えて」この土地を買い、麴町からの移転を前に、新校舎を見ることなく、病死した。わたしたちが見ているこの校舎を、梅子は見なかった。

日本の国策により、若干七歳で米国へ渡った梅子は、クリスチャンとしてのバックボーンと強い使命感を持ち、その後の人生を全うしたように思える。病に伏し、仕事への情熱に葛藤する梅子は日記にこんな一節を残している。

自分自身のことをいつまでも思い煩うまい。

物事の普通の成り立ちの中で、わたしや、わたしの仕事はごく些少なものに過ぎないことを学ばねばならない——

新しい苗木が芽生えるためには、ひと粒の種子が砕け散らねばならないのだ。

(『津田梅子の娘たちーひと粒の種子からー』〔ドメス出版〕より引用)

グローバルな視点で日本における女性の在り方に理想を描き、種をまき続けた人だった。津田梅子の骨は、遺言通り、大学敷地内に埋められている。

木村幸恵の『梅子ドーム』は、透明なオカッパ型のビニールハウスである。それは「世界の中の日本」の幕開けと、梅子の幼気な心がとらえた世界を、同時にあらわしている。

梅子がまいた種が、「遠い将来」である今日、小平の地、日本の地に実りを結びますように…

そんな祈りを込めて、この夏、元気村に設置した『梅子ドーム』の周りには、非常な暑さにめげず、根を下ろそうと踏ん張っている緑があった。

いちど 来てみませんか?

小平市男女共同参画センター

ひらく

(愛称)

小平市男女共同参画センター

〒187-0031 小平市小川東町4-2-1

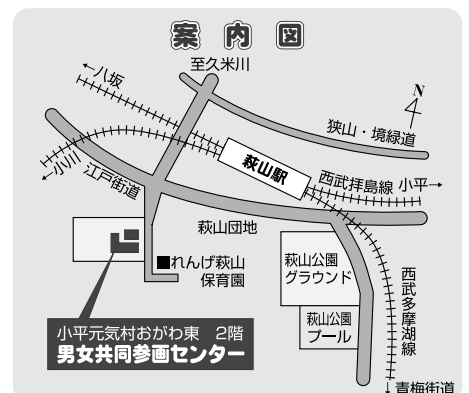
小平元気村おがわ東 2階

042-348-2112 (青少年センター兼用)

西武拝島線・西武多摩湖線 萩山駅南口より徒歩5分

※駐車場に限りがありますので、車での来館はご遠慮ください

- 開館時間 午前9時～午後10時
- 休館日 火曜日・年末年始・奇数月の第2日曜日
- 利用対象者 利用登録団体・個人
下記にお問い合わせください
- 問合せ 次世代育成部青少年男女平等課
042-346-9618



行って
みました

原宿カウンセリングセンター

(略称HCC 所長：信田 さよ子さん)

訪問のきっかけは、友人のアルコール依存症のことを話題にしたことから。断酒しないと本人を入院させたくても説得することは難しく、困ったままの状態が続いています。周囲の者はやきもきして

いるしかないのでしょうか。思いついたのが「カウンセリング」でした。女と男のフォーラムでご縁のあったHCCに電話をして伺うことにしました。

原宿カウンセリングセンターはJR原宿駅から徒歩10分程度のところにあります。小平市では絶対に見られないおしゃれな街並みから少し入った静かで落ち着いた一角に、見つけました。屋上がカーブ状になったビルの3階です。よく見ると窓に「HCC」の文字がありました。

小さなエレベーターから降りるとすぐそこが待合室になっています。こじんまりした清潔感のあるフロアにレモン色の椅子。私達は案内された小部屋のソファに座り、信田所長からHCCでのカウンセリングを教えてくださいました。



●困っている人が行くところ

本人でも、本人の周りの人でも、そのことで一番困っている人や本人のことを大事に思っている人が受けられます。普通の人の考え方や現実的な考え方で、戦略的に問題解決を進めていきます。お酒が止められない人にはどうすれば止められるかを考えていきます。

●どんなことでも相談にのってくれるところ

夫の浮気や隣近所の付き合い方、子どものこと親のことなど、どんなことでも困ったままにしないで相談に来てほしい。こんなことで相談するなんて、と思わないでほしいです。最近ではDVの問題を抱えた方の相談が増えています。加害者は「男とはこういうもの」に捕われながら本当は妻とは別れたくないと思っています。「だったら夫が変わりなさい。」とを考えて進めています。

●精神科と相談窓口の間隙を埋めるところ

精神科は本人が受ける医療です。薬は処方されても診療時間は短く本人の思いは聞ききれないし、本人が行かなければはじまりません。自治体の相談窓口は無料なのは良いが、間口が広く漠然としていることが多いし、場所が身近すぎる点を気にする人もいます。

HCCは設立12年目。実績と力量のあるスタッフがたっぷり時間を使った充実したカウンセリングの後、ここを一步出ると都会の雑踏に紛れる、という気安さがあります。有料で(弁護士報酬の1時間1万円に合わせた料金設定)、通常は最低3ヶ月をかけて相談を受けますが、1回分のお金しかないとか、地方からの方には1回から対応しています。

●グループカウンセリング・教育プログラム

同じ問題を抱えた方同士で問題を共有するグループカウンセリングをやることがあります。他にもたいへんな人たちがあるとわかったり、グループの人たち同士で仲良くなれたりします。また、問題のメカニズムを理解することから入る教育プログラムも用意されています。

おそろおそろ訪問したHCCでしたが、ここは一人ひとりの心強い味方になってくれる、どんな悩みでも解きほぐして気持ちやすきりさせてくれるところだと感じました。友人の問題でも私が困っているならOKというのには驚きです。悩みを抱え込まず、まず☎予約です。

原宿
カウンセリング
センター

<http://www.hcc-web.co.jp/>
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-24-4 観世ビル3F
Tel 03-5469-0006
Fax 03-5469-0013

ひらくはココにあります

男女共同参画センター「ひらく」・公民館(11館)・図書館(11館)・地域センター(18館)・福祉会館・総合体育館・児童館・健康センター・市役所1F2F・東部・西部出張所・郵便局(17か所)・市内各駅(7か所)・八坂駅・萩山駅・東大和市駅

小川町 多加楽・髙野の歩・商工会館・JA東京むさし・コーヒーロッジベル

小川西町 佐野商店

小川東町 ギャラリー 青らんぎ・長江宴・フレッドファクトリー510・うつわと珈琲 悠・カフェAir

上水本町 アトリエ・パンセ 津田町 ハタエコンサーン

学園西町 寝台アイン・サンローズ・中森書店・百の豆木・梁里館・美容室アーグラッシュ
鈴木小児科・本間歯科・分館サンライズ・あかね薬局・床屋のけんちゃん

学園東町 日本堂文具店・梅の里・アクティブスタジオ・りそな銀行小平支店・グエン・パン・カフェ

美園町 多摩済生病院・ラグラス・珈琲の香・POEM・永田珈琲・ルネこだいら

御幸町 ケアタウン小平 鈴木町 和菓子の玉川屋・きらら はうす

天神町 公立昭和病院・カフェテリア ヴェルデ・ワザル「のぶ」・ヘアーサロンひろ

大沼町 萬屋酒店 花小井 上原薬局・風のシンフォニー・辰砂

編集後記

●「ひらく」が創刊されたのは平成9年1月ですが、もうすぐ12歳になります。子どもであれば平成21年4月には中学生。「ひらく」を支える私たちも成長しなければ。(き)

●最近我が家では液晶テレビを購入したので、中世の街角のカフェで、住む人がゆったりとお茶や読書を楽しんでいる風景を見て疑似体験しています。(き)

●やっと作った記事にあっさりダメだしをもらうことがある。「では、どうするか」と考えられるときはイケる。ダメだしエールカムだ。「あくためだ」と思うときは休養が必要だ。(S)

●雷の多い土地で育った私は、稲光に慣れているが、今年の夏の大音響と光に身がすくんだ。戦場だったら、どんなに辛いだらう。(あ)

●見合い結婚をひとつの契約と考えて私達は暮らし始めた。「まあ、いいか」と感じて決断し、向き合って生活してみても、お互いにだんだん好ましい状態になればいい。今もそう思っている。(ゆ)